

東北地方の樹木方言 (第3報)

佐藤正己

Masami SATO : Notes on the Local Names of Trees Collected in
Tohoku-District, Japan (3)*

第2報** に続いて、ブナとイヌブナ、マンサクとマルバマンサク、キブシ、キハダ、ノリウツギ、イヌガヤとハイイヌガヤ、カヤとチャボガヤの方言に就いて調査した結果を此処に発表する。

本稿をまとめるについては、第1, 2報の緒言に挙げた諸氏の他に、細井幸兵衛(青森)、伊藤安次、富樫重造(秋田)、後藤三郎(山形)、堀芳孝(福井)の諸氏から更に資料を戴いた。また方言学上の問題については山形大学文理学部の田嶋福重教授と喜多義勇教授、帝塚山学院短期大学の榎垣実教授に種々の御教示を得た。此処に特に記して厚く感謝の意を表する。

(12) ブナ (*Fagus crenata* BL.) とイヌブナ (*F. japonica* MAXIM.) の方言

小泉源一博士によれば⁽¹⁾、表日本のブナは裏日本のブナとは異り、コハブナ (*F. undulata* BUERG.) と呼ぶ別種に属するものとされたが、これは必ずしも学界の定説となつてはいないようであるし、少くとも方言調査の上では区別する必要がないと思うので、ブナ属の樹木方言に就いては、単にブナとイヌブナ (*F. japonica* MAXIM.) の2種を区別することに止めた。

この広義のブナは、北は北海道の西南部から東北地方には一面に分布し、更に本州全域にわたつて生育し、南は四国と九州にも産する典型的な温帯樹種である。分布が広いのに却て方言は少く、何処に行つてもブナで通じ、時に樺とか栲の俗字が用いられ、更に漢名の山毛櫨が流用されている。

ブナの方言を集めて見ると、樹そのものよりも、果実に起因するもの又は果実そのものに対する方言の方が多きことに気がつく。その第一はソバ、ソバノキ、ソバグリ、ソバグルミ等のソバを基本形とするものである。このソバは稜^{そば}の意で、果実が三稜形を呈するためであることは既に和名抄や本草図譜等の古書にある通りで、これは作物のソバ(蕎麦)の語源でもある⁽²⁾。この関係は単に和名ばかりでなく、学名でもブナ属の *Fagus* に対してソバ属が *Fagopyrum* で、津山博士が指摘されたように東西の植物学者の感覚が一致しているよい例である⁽³⁾。

後に記したように、ブナの古名のソバノキが現在なお山形県の一隅に通用し、その果実の方言として「本草図譜」や「かてもの」等の古書に出ているコノミが、青森県や山形県に残っていることは、東北地方が多くの古語を温存している地域であることを証明するも

* Contributions from the Laboratory of Applied Botany, Faculty of Agriculture, Yamagata University. No. 26 (Oct. 1953)

** 山形大学紀要(自然科学) 2: 313-324 (1953)

(1) 小泉源一: コハブナ(植物分類地理 8: 139-140, 1939), 林 弥栄: ブナとコハブナの分布(日本植物学会第18回大会講演要旨, 1953)

(2) 前川文夫: リョウブの語源はソバノキか?(植物研究雑誌 23: 62-63, 1949)

(3) 津山 尙: 東西の植物の見立方の一致(植物研究雑誌 23: 96, 1949)

のと云えよう。

イヌブナと区別するための方言としては、ホンブナやシロブナ(イヌブナをクロブナと呼ぶ)がある。

ブナ及びその果実に対する全国各地の方言は次の通である。

イシブナ 大分(日田)

オモ 愛媛(上浮穴)

カスナラ 福井(大野)

キソバ 岩手(和賀郡黒沢尻)

クマエ 熊本(人吉)

クマエノキ 熊本(八代)

コノミ 青森(西津軽), 山形(西田川), 長野(下水内)

シロブナ 岩手(岩手, 上・下閉伊), 秋田(北秋田), 茨城(多賀), 埼玉, 群馬(利根), 山梨, 静岡, 岐阜(飛騨地方), 福井(大野), 滋賀, 三重(紀伊地方), 岡山(美作地方), 愛媛(上浮穴), 高知(土佐), 大分(日田), 宮崎(児湯)

ソバグリ 秋田(大館), 山形(西田川, 飽海)

ソバグルミ 秋田(大館)

ソバノキ 山形(西田川郡福栄村の老人間

に通用し, 滅びつつある方言), 鹿児島(出水)

ソマノキ 鹿児島(出水)

チカラシバ 岡山(美作地方)

ナラボソ 福井(三方)

ニオーズ 香川(香川)

ノジ 広島(広島, 山県, 佐伯)

ノジイ 広島

ブナグリ 秋田(鹿角)

ブナヌギ 山形(最上, 北村山)

ブンナ 岩手(稗貫), 秋田(北秋田)

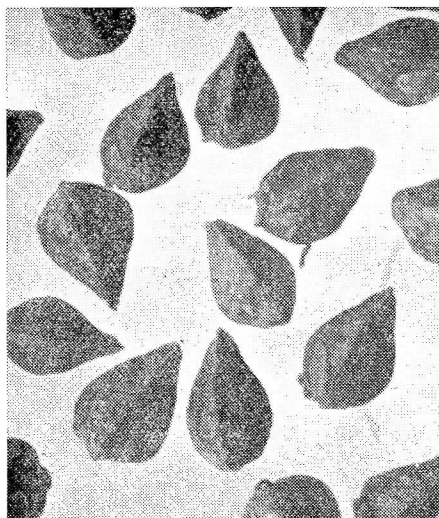
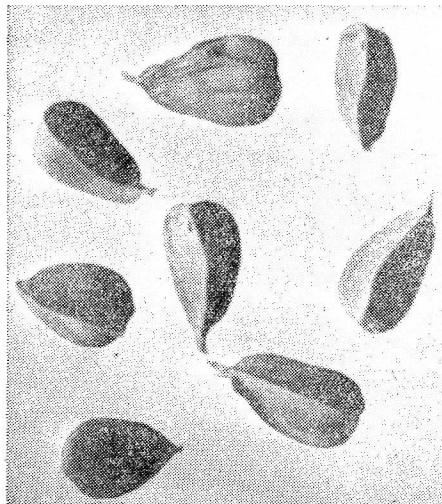
ブンナグリ 山形(最上)

ホンブナ 青森(下北), 群馬(利根), 埼玉, 静岡(遠江地方), 滋賀, 愛媛(中予地方)

ヤシャ 静岡(伊豆地方)

ヤマエノキ 宮崎(西諸県)

ヤマブナ 愛媛(中予地方)



第12図 ブナの種子(左, $\times 1$)とソバの種子(右, $\times 3$)

なおイヌブナの方言はあまり多くないが, 次のようなものがある。

アカブナ 福井(三方), 岐阜(飛騨地方)

静岡(遠江地方), 高知(香美)

イシブナ 宮城(宮城, 名取, 刈田, 柴田),

イボブナ 埼玉, 愛媛(中予地方)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| カシブナ 徳島 (美馬) | ノジ 京都 (丹波地方), 大阪 (摂津地方), |
| クロブナ 青森 (西津軽), 岩手 (上閉伊, | 兵庫 (丹波・摂津地方), 広島 (広島) |
| 気仙), 宮城 (加美, 黒川), 群馬, 静岡 (遠 | モトスブナ 岡山 (美作地方), 鳥取 (因幡 |
| 江地方), 広島, 三重 (紀伊地方), 愛媛 (新 | 地方) |
| 居), 高知 (土佐, 香美) | ワサブナ 富山 (越中地方), 三重・和歌山 |
| コマブナ 青森 (下北) | (紀伊地方) |

(13) マンサク (*Hamamelis japonica* SIEB. et ZUCC.) と
マルバマンサク (*H. obtusata* MAKINO) の方言

東北地方で春にさきがけて咲く花にマンサクがある。この地方ではマルバマンサクと共存するので両者を一緒にした方言を拾つて見たら、10通ばかり集つたが、語源的には比較的簡単なものが多い。

まず最初に和名のマンサクの語源に関して牧野富太郎博士と細井幸兵衛氏とが相反する結論を近頃発表した*。牧野博士は、「まず咲く」くと云う従来の語源には賛成し難く、豊年満作にちなんだ「満作」又は「万作」の意であろうとされ、もし「先ず咲く」意ならば頭の単純な山人はマツサクとも呼びそうなものだと云つて居られる。之に対して細井氏は多数の実例を引用して、旧來の「先ず咲く」を正しい語源であると断定している。著者は此処で簡単に細井氏の説に賛成することを述べて語源考の蒸し返しを避けることにしたい。

東北地方の一部ではフクジュソー (*Adonis amurensis* REGEL) をも一般的にマンサクと呼び、その混同を避けるために、真のマンサクには木マンサクとか柴マンチャクやマンサク柴の方言がある。

マンサク類似の方言で呼ばれる植物としては、フクジュソーの他にキクザキイチリンソウやクロモジ、コブシ等があり、クロモジを除けば何れも早春に他の草木に魁けて美しく目立つ花を咲かせると云う共通の特徴がある。

マンサクの方言としては次のようなものが集められている。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| キマダサク 岩手 (九戸) | ネソノキ 福井 (三方) |
| キマンサク 青森 (上北), 岩手 (岩手, 上・ | ネリ 滋賀 |
| 下閉伊) | ノタリマンサク 岩手 (岩手, 盛岡) |
| クロマンシヤク 新潟 (越後三川温泉) | マゴサク 岩手 (九戸) |
| シオネジ 長野 (松本) | マンサクシバ 青森 (上北, 下北), 秋田 (山 |
| シシハライ 長野 (下水内, 下高井) | 本) |
| ジシャ 福井 (大野) | マンザクラ 新潟 (刈羽) |
| シバマンチャク 秋田 (鹿角) | マンサダ 青森 (中津軽) |
| ツムラノキ 福井 (三方) | マンシヤク 新潟 (北蒲原, 岩船) |
| ネジキ 福島 (信夫) | マンチャク 青森 (津軽地方, 上北), 秋田 |
| ネジリキ 長野 | 鹿角, 北秋田), 山形 (西田川) |
| ネソ 福井 (大野) | |

(14) キブシ (*Stachyurus praecox* SIEB. et ZUCC.) の方言

キブシは東北地方の山野に普通に生ずる雌雄異株の落葉灌木で、枝や細い茎から白色で

* 牧野富太郎：マンサクの語源愚考 (牧野植物混混録 5 : 83-85, 1947)。細井幸兵衛：三陸地方植物雑観 1. マンサク談義 (青森林友 1953・4 : 26-31, 1953)。

均質の髓を抽出して燈心に用いたためにトーチンノキの名があり、子供が髓を突き出して遊ぶことからズイヌキシバ(髓抜き柴)又はズイノキ(髓の木)系統の方言が多い。また古い時代に果実を白でひいて粉にし、ヌルデの五倍子の代用として黒色染料に利用したことからマメブシ系統の方言が生れた*。

キブシの方言を全国的に拾つて見ると次のようなものがある。

アカウツギ 青森(下北), 秋田(大館, 北秋田)

アカシバ 青森(中津軽), 秋田(大館, 北秋田)

アサダ 高知(香美)

ウツギ 福井(大野)

ウメナ 高知(播多)

カサギ 高知(香美)

カサダ 香川(綾歌), 徳島(河部)

カサナギ 香川(安芸)

カサナブシ 高知(安芸)

カサング 香川(香川)

クロガネ 高知(安芸)

コゴメノキ 高知(長岡)

コメシバ 秋田(仙北)

ジイキシバ 秋田(鹿角)

ジイノキシバ 秋田(北秋田, 山本, 仙北)

ジシバ 青森(下北)

ジツキ 青森(陸奥地方), 岩手(陸中地方)

ジツキシバ 秋田(鹿角)

ジヌキシバ 青森(東津軽, 上北)

ジヌギシバ 秋田(北秋田, 山本)

ジノキ 青森(上・下北)

ジノキシバ 秋田(北秋田)

ジノギシバ 青森(北・中津軽)

ショーフト 新潟(岩船)

シロツキデ**

ズイキ 秋田(仙北), 山形(最上)

ズイッポ 静岡(南伊豆)

ズイヌキシバ 青森(上北)

ズイノキ 山形(西置賜), 新潟(刈羽), 福井(大野)

ズイノキシバ 青森(津軽, 下北)

ズイボー 静岡(南伊豆)

ズサノキ 秋田(南秋田)

スッポン 高知(播多)

ズヌキ 青森(東津軽), 山形(北村山)

ズヌキシバ 青森(中津軽)

ズノキ 青森(南・中津軽)

ズバキ 秋田(山本)

ズボキ 秋田(南秋田)

タニカサ 高知(長岡)

タニクサリ 高知(播多)

タニトオシ 香川(綾歌)

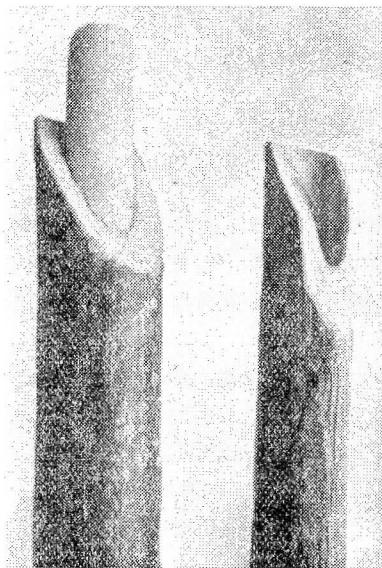
タニワタシ 高知(安芸)

タニワタリ 高知(安芸)

ツイツイ 徳島(美馬)

ツキツキ 高知(長岡)

ツキダシノキ**



第13図
キブシの髓を突き出したところ(左)
と取去つたあと(右)

* [此木の実を会津辺にて婦女齒を染るに五倍子に代へ用ふ。故にふしの名あり] (阿部樸庵: 草木育種, 後編下)

** 地名のないものは, 武田久吉: 民俗と植物, p. 26 のキブシの項より引用したものである。

ツクツク 福井 (大野)	城 (刈田, 宮城), 秋田 (大館), 山形 (最上, 置賜), 埼玉 (秩夫), 千葉 (下総地方)
ツズミ 高知 (幡多)	静岡, 福井 (三方), 和歌山 (東牟婁), 愛媛 (上浮穴, 新居, 温泉), 高知 (土佐, 長岡)
ツンヌキ 宮城 (陸前)	
トーシン 高知 (幡多, 高岡), 愛媛 (新居)	
トーシンノキ 高知 (幡多)	
トースミ 福井 (敦賀), 高知 (幡多), 愛媛 (上浮穴)	マメベシ 愛媛 (新居)
トンブリ 秋田 (大館)	マメボシ 岩手 (岩手, 紫波)
ブシ 青森 (上北), 秋田 (北秋田)	マメボチ 秋田 (仙北, 大館)
フシノキ 秋田 (大館)	マメンプシ 愛知 (北設楽)
マイマイブス 福井 (三方)	マンブシ 福井 (大野)
マメブキ 青森 (西津軽)	マンボシ 岩手 (岩手)
マメブシ 岩手 (岩手, 上閉伊, 稗貫), 宮	ヨメナ 高知 (高岡)
	ヨメナノキ 高知 (高岡)

(15) キハダ (*Phellodendron amurense* RUPR. var. *suberosum* HARA) の方言

キハダは我が国の山地に広く自生する落葉喬木で、樹皮の内側にベルベリンを含有し黄色を呈するので、古來薬用及び染料植物として重要だつた樹種である。従つて多数の方言があるのも当然であろう。

東北地方の特徴的方言はシコロ系統のものであるが、その語源はアイヌ名と考えるのが適当のようである。アイヌ人出身の知里真志保氏によれば*、キハダ及びカラフトキハダに対するアイヌ名は、その果実名が基本型で、sikerpe (北海道全道) 又は sikerepe (樺太真岡) であり、木そのものは sikerpe のなる木 (ni) の形で示され sikerpe-ni (北海道全道) 又は sikerepe-ni であると云う。

シコロペとかシコロノ等の方言を此等のアイヌ名からの転訛と考えるのは当然で、貝原益軒が大和本草巻十一に「黄檗 其木の皮黄なるゆへ名つく。はだは皮膚也。本邦処々に有之。実をシコロへと云。蛮語なるべし。胡椒に似たり。味苦きゆへ虫を殺し腹痛を止む。葉は槐及苦木に似たり」と述べたのは正しい見解である。ところがこのシコロノへを物好きにも四国米ともじつたらしく、小野蘭山は大和本草批正に「四国米は薬店の名なり、蛮語に非ず」と解釈している。何れにしても、アイヌ人と関係の深い北海道と東北地方の北半に限つてシコロベ系統の方言が流通していることは注目に値することである。

日本人は恐らく古くから樹皮を主として利用した為に、樹皮の黄色を呈するのに注目してキハダ (黄膚) と命名したが、アイヌ人は果実の方を主に利用するので、果実名を基本形としたものと考えられる。彼等は秋になると果実を多量に採集し、蛔虫駆除に効があるとして生食し、また乾燥して貯え種々の料理に使つたり、煮てジャム状にしたものを喘息や胃病の薬とした。そしてその果実に甘いものと苦いものがあるので、苦い方を区別して seta **-sikerpe と呼んだ。苦い果実のなる木は seta-sikerpe-ni である。

キハダのアイヌ名は大部分が果実名を基準としているが、樺太アイヌは木そのものを sikerepani と呼び、その果実 (turex) を sikerepani-turex と呼ぶと云う。然しこれも根

* 知里真志保：分類アイヌ語辞典，第1巻 植物篇 p. 102 (1953)

** seta は犬の意であるが、植物名につけられると「似て非なるもの」とか「価値の劣るもの」又は「役に立たぬもの」の意となると云うことで、前報で述べたイヌツゲ、イヌマキ等のイヌとよく一致して面白い。

幹は sikerepa で、果実名が優先していると見做してもよいであろう。

日本ではキハダの果実の利用は殆んど聞かないが、信州戸隠山附近では果実をミヨーセン(妙煎?)と呼び、潰して砂糖で煮たものを煉菓にすると云うが、* 果して今日でも利用しているかどうか確認して居ない。

キハダの漢名の黄蘗の蘗の字はハク、の他にヘキの音もあり、その為にオーバクばかりでなく、オーヘギ、オーヒキ、オヘギ、オヒギ等の一連の方言が生れたものと考えられる。

青森県下の方言のメグサリノキは目腐れの木の意で、眼がただれてしよぼしよぼしている時に、キハダの皮を眼の周囲に張りつけるとよくくつつき、気持がよくなる為に用いられるからである。この地方ではもしキハダが手に入らぬ時は、煤けた障子紙を剥ぎとつて張ると云う。

キハダの方言を全国的に拾うと次のようなものがある。

オイヘギ	岡山(美作地方)	上閉伊, 二戸, 岩手, 東磐井, 秋田(鹿角, 北秋田, 仙北, 山本, 雄勝), 山梨, 滋賀
オーシキ	岩手(和賀)	
オーバク	岩手(岩手, 気仙, 釜石, 下閉伊, 新潟(中蒲原), 岐阜(飛騨地方), 三重(紀伊地方), 和歌山(紀伊地方)	シコロベ 秋田(山本) シコロベ 秋田(山本)
オーヒキ	岩手(和賀), 秋田(鹿角)	シッコ 青森(三戸), 岩手(岩手)
オーヘギ	鳥取(因幡地方), 岡山(備中地方)	シッコノキ 青森(三戸), 山形(北村山)
オヒキ	岩手(気仙)	シロツペ 秋田(北秋田)
オヘギ	岡山(美作地方)	スコロ 青森(西津軽, 下北), 岩手(九戸, 下閉伊, 稗貫)
カネノキ	新潟(南蒲原)	スッコノギ 岩手(釜石)
キガカワ	鳥取(因幡地方)	スッコノヘ 岩手(釜石)
キャーラ	新潟(刈羽)	タンパ 秋田(平鹿, 雄勝)
コーチン	富山	テガキ 島根(石見地方)
サンゼンソー	岐阜(飛騨地方), 埼玉, 静岡(駿河・遠江地方)	ニガキ 山形(最上), 島根(石見地方)
シコ	青森(上北, 三戸), 岩手(岩手)	ヒコ 岩手(岩手)
シコー	青森(三戸)	ヒコノキ 岩手(稗貫)
シコノキ	岩手(下閉伊, 稗貫, 和賀)	ヒコロ 岩手(岩手)
シコノヘ	青森(北・中津軽), 秋田(北秋田)	ホーチン 富山
シコノヘイ	岩手(上閉伊)	メギノキ 静岡(遠江地方)
シコロ	青森(全県下), 岩手(九戸, 和賀)	メグサリノキ 青森(下北)
		モヘ 青森(南・中津軽)
		ミヨーセン 長野(北安曇)

(16) ノリウツギ (*Hydrangea paniculata* SIEB.) の方言

和紙製造用の糊料植物として、トロロアオイと共に欠くことの出来ないノリウツギは、我が国の山野に広く分布しているので、その方言も非常に多い。然しその大部分は糊に関係があり、ノリ、ネリ、ニレを基本にもつものが大部分である。

* 牧野富太郎: 断枝片葉(其三十三) みようせん (植研 5: 206, 1928), 武田久吉: 民俗と植物, p. 30-32 (1948)

ノリウツギの方言の中で最も特徴のあるのはサビタ系統であろう。その語源に就ては未だ確信のもてるものがないが、サワフタギにもサビタの方言があることや、ノリウツギにもサワフタ、サフタギ、サフタ等の方言があることから、沢に蓋をするように生い繁る木という意味のサワフタギ (沢蓋木) が語源で、サワフタギ→サワフタ→サフタ→サビタ等と変化したものと一応解釈しておきたい。

ノリウツギの方言を全国的に拾つてみると次のようなものがある。

- | | |
|---|---|
| オースケノキ 熊本 (南関) | 野, 小浜, 徳島 (海部) |
| ガギ 岩手 (和賀) | ニベノキ 和歌山 (東牟婁), 高知 (安芸) |
| ガギノキ 岩手 (和賀) | トロロノキ 奈良 (大和地方) |
| ガザ 岩手 (下閉伊), 宮城 (宮城) | ニレ 山形 (北村山), 宮城 (本吉, 刈田, 伊具) |
| カブラキ 福井 (大野) | ニレキ 岩手 (東磐井), 宮城 (玉造, 栗原) |
| ガンギ 山形 (最上) | ニンベ 岩手 (上・下閉伊, 稗貫) |
| ガンノキ 秋田 (仙北) | ニンベイ 岩手 (稗貫) |
| キダモ* | ネリ 宮城 (名取) |
| キニレ 山形 (県下の手漉紙製造家) | ネリカツギ 福井 (大野) |
| キノリ 高知 (高岡) | ネリカワ 福井 (大野) |
| クサウツギ 新潟 (佐渡) | ネリギ 岩手 (上閉伊, 胆沢, 気仙, 東磐井, 岩手, 釜石), 宮城 (本吉, 加美, 黒川, 宮城, 名取), 山形 (最上) |
| クソウツギ 新潟 (佐渡) | ネリノキ 福井 (大野) |
| サシタ 岩手 (岩手) | ノリ 高知 (香美) |
| サヒタ 岩手 (岩手) | ノリガザ 秋田 (山本) |
| サビタ 青森 (津軽地方), 秋田 (鹿角, 南・北秋田, 山本, 仙北), 岩手 (稗貫, 岩手, 紫波) | ノリギ 岩手 (岩手, 和賀, 上閉伊), 秋田 (仙北), 宮城 (宮城), 徳島 (美馬, 三好), 愛媛 (新居, 上浮穴, 宇摩), 高知 (高岡, 土佐, 長岡, 香美, 安芸) |
| サビタ 青森 (津軽地方), 秋田 (南・北秋田, 仙北), 岩手 (岩手, 九戸) | ノリノキ 岩手 (九戸), 山形 (北村山), 群馬 (栃木, 愛知 (北設楽), 高知 (吾川, 土佐, 長岡, 安芸) |
| サブタ 岩手 (釜石) | ノリダマ* |
| サブタ 青森 (八戸), 秋田 (仙北) | ノリノキ* |
| サフタギ 岩手 (釜石) | ノワキ* |
| サワフタ 青森 (上北, 三戸), 岩手 (下閉伊) | フノリ 愛媛 (上浮穴), 高知 (長岡) |
| サンピタ 青森 (下北), 秋田 (仙北) | ヒノ* |
| シロハンギ 青森 (西・南津軽) | メデヌキ 岩手 (上閉伊, 気仙) |
| シャピタ 青森 (八戸) | メデノキ 岩手 (上閉伊) |
| タズ 高知 (安芸, 土佐, 長岡), 愛媛 (新居) | ヤマウツギ* |
| タズノキ 高知 (長岡) | ヤマドーシ 和歌山 (西牟婁) |
| トーアジサイ* | |
| ドクブツ 長野 (佐久地方) | |
| ニベ 岩手 (稗貫), 福井 (三方, 大飯, 遠 | |

* 地名のあげてない方言は刈米達夫：製紙用の粘料植物 (植研 5 : 98, 1928) より引用したもの。

(17) **カヤ** (*Torreya nucifera* SIEB. et ZUCC.) 及
びチャボガヤ (var. *radicans* NAKAI) の方言

東北地方の山地に自生するのは、多雪地帯特有の矮性になつたチャボガヤの方であるが、方言の上では基準種のカヤと区別しないで取扱うことにする。

カヤには特に著しい方言は見られなかつた。ただ面白いことはカヤノミと称するのが種子ばかりでなく、木そのものを指していることである。また雄株をオトコカヤノミと呼んで区別している地方がある。

カヤ及びチャボガヤの方言としてはあまり変つたものがなく、今までに集め得たものは次のようなものである。

オトコカヤノミ 山形(東田川)	置賜, 茨城(那珂)
ガヤ 静岡, 長野(松本, 上田), 岐阜, 岡山, 香川(香川), 愛媛(上浮穴, 新居), 高知(長岡, 高岡, 幡多, 安芸)	カヤノミノキ 岩手(江刺, 東・西磐井), 宮城(陸前地方)
カヤクサ 広島(安芸地方), 岡山(備後地方)	シロガヤ 滋賀, 高知(吾川)
カヤノキ 岩手(気仙), 宮城(本吉), 山形(西置賜)	タチガヤ 新潟(岩船)
カヤノミ 山形(酒田, 飽海, 東田川, 西)	ホンガヤ 埼玉, 滋賀, 京都, 三重, 和歌山(紀伊地方), 大阪, 兵庫, 岡山(備後地方), 広島(安芸地方)

(18) **イヌガヤ** (*Cephalotaxus drupacea* SIEB. et ZUCC.)
と**ハイイヌガヤ** (var. *nana* REHD.) の方言

東北地方の東側にはイヌガヤが、西側の日本海側にはハイイヌガヤが多いが、方言としては特に区別しないでおく。

カヤ及びチャボガヤに比較するとイヌガヤ及びハイイヌガヤの方が遙に多数の方言がある。時にはカヤとイヌガヤを混同して同じ方言で呼んでいる場合もあるが、それは此処では削除してしまつた。

岩崎灌園の本草図譜にはアブラガヤ, ベベカヤ, ヒョーヒ等の異名が挙げられているが、此等の古名が今日もなお北陸地方から東北地方にかけて残っている。此等裏日本の地域は古語を温存する地域として知られている通り、植物名にもよく同様の傾向を認めることができる。

イヌガヤ及びハイイヌガヤの方言としては次のようなものがある。

イヌクソマツ 青森(下北)	ショーブ 青森(全県下), 岩手(全県下), 秋田(北秋田, 仙北, 河辺), 宮城(全県下), 新潟(北蒲原)
オーギガヤ 茨城(石岡)	ジョーブ 青森(東・南津軽), 岩手(岩手, 和賀), 山形(西置賜)
オトコガヤ 長野(上田)	ショーブカヤ 秋田(仙北)
オニガヤ 山形(最上)	ショーブカラ 青森(中津軽)
オネヒノキ 熊本(八代)	ショーブガラ 岩手(稗貫)
キツネモロビ 秋田(南秋田)	ショーブキ 青森(中津軽, 上北, 下北)
シビ 山形(北村山)	ショーブコ 岩手(気仙), 宮城(本吉)
シュビ 山形(西田川, 新庄, 最上)	
シュビキ 山形(最上)	
ショービ 山形(西田川, 北村山)	

ショーブシバ 青森 (中・南津軽, 上北, 下北), 岩手 (岩手)
ショーブノキ 青森 (下北), 岩手 (気仙), 秋田 (南秋田)
ショバ 秋田 (鹿角)
ショブ 秋田 (南秋田)
ソーブ 青森 (下北, 上北, 東・西・北津軽)
ソーブシバ 青森 (南津軽)
ソーブノキ 青森 (西津軽), 秋田 (北秋田)
ソブキ 青森 (上北, 下北), 秋田 (北秋田)
ダケオンコ 青森 (上北)
バリコノキ 岩手 (気仙)
ヒエビ 福井 (大野)
ヒキノキ 高知 (幡多)
ヒビ 滋賀 (近江), 香川 (香川), 徳島 (海部), 愛媛 (上浮穴, 新居, 温泉, 宇摩), 高知 (香美, 土佐, 長岡, 幡多, 安芸, 吾川)
ヒュービ 宮城 (名取)
ヒョービ 山形 (北村山), 福井 (大野)
ヒョーブ 秋田 (仙北), 山形 (西置賜), 宮城 (刈田), 長野 (下水内), 静岡
へイベ 和歌山 (那智山)
へダマ 秋田 (大館), 静岡 (秋葉山), 愛知 (北設楽)

ヘッタマ 岩手 (東磐井, 気仙), 宮城 (本吉, 加美, 黒川), 福島 (会津), 茨城, 静岡
ヘッタマノキ 宮城 (宮城, 柴田)
ヘップリガヤ 静岡
ヘビ 和歌山 (東牟婁, 日高)
ベベ 福井 (遠野)
ベベシ 福井 (遠野)
ヘンダ 島根 (石見地方)
ヘボガヤ 岩手 (和賀), 秋田 (大館), 兵庫 (三原, 淡路)
ホダマ 静岡
マッコーノキ 山形 (北村山)
マッコギ 山形 (北村山)
マッコヌキ 山形 (北村山)
メガヤ 高知 (吾川)
モロモギ 鹿児島 (加治木, 鹿屋), 宮崎 (小林)
ヤズメ 新潟 (刈羽)
ヤドメ 新潟 (岩船郡粟島) 矢止の転訛か?
ヤマオンコ 岩手 (上閉伊)
ヤマガヤ 新潟 (刈羽)
ヤマショーブ 青森 (上北, 下北, 三戸), 岩手 (陸中地方), 秋田 (上小阿仁), 宮城 (陸前地方)
ヤマソブ 青森 (下北)

〔東北地方の植物方言に関する文献目録〕

(1) 東北地方全体に関するもの

- 1) 小林好日：土筆の系譜 (小林好日, 国語学の諸問題 530-572, 1941)
- 2) 農商務省山林局：日本樹木名方言集 (東京)
- 3) 農林省山林局：樹種名方言集 (東京, 1932)
- 4) 佐藤正己：東北地方の樹木方言, 1-2 (山形大学紀要 農学 1巻 226-240, 1953; 同自然科学 2巻 313-324, 1953)
- 5) ——：ヒノキとサワラとアスナロ (蒼林 4-2: 34-39, 1953)
- 6) 橋 正一：全国植物方言集 (盛岡, 1939)

(2) 青森県の部

- 1) 青森営林局：三陸植物誌 (青森, 1935)

- 2) 細井幸兵衛：三陸地方植物雑観 (青森林友 1953-4: 26-31, 1953)
- 3) ——：三陸地方のコソウナカセ, ムコナカセ (北陸の植物 2: 65, 1953)
- 4) 北山長雄：津軽方言, 動物及植物名 (民俗研究 28巻)
- 5) 村井三郎：三陸地方のカバノキ科樹木 (岩手植物研究 1巻 3号 7-26, 1932)
- 6) 小井川潤次郎：植物方言, 三戸郡 (アミール 2巻)

(3) 秋田県の部

- 1) 秋田営林局：管内国有林植物目録 (秋田, 1934)

- 2) 藤井竜之助:石川理紀之助翁「庵の手なべ」中に用いられている植物方言(自然科学と博物館 18巻 277-279, 1951)
- 3) 藤田秀司:四ツ小屋附近の植物方言(1948)
- 4) 賀川武雄:秋田県下に於ける植物方言について(理学界 16巻4号, 1918)
- 5) 松田孫治:秋田県の植物方言二三の考察(秋田教育 昭和10年12月号 26-29, 1935)
- 6) ——:ミヤマイラクサの方言アイに就いて(植研 17巻 483-484, 1941)
- 7) キハダの方言(植研 17巻 484, 1941)
- 8) ——:秋田植物方言雑考(鷹巣農林高校生徒会誌 翠緑 2号 1-4, 1953)
- 9) 小林 新:私の研究 29, 秋田県の植物(大館, 1951)
- 10) 水口 清:秋田県の植物方言(鷹巣, 1930)
- 11) ——:本校附近に於ける植物方言
- 12) 村松七郎:石川理紀之助翁「救荒食図解」に就いての記(植研 7巻 304-318, 1931)
- 13) ——:秋田県植物誌(秋田, 1932)
- 14) 武藤鉄蔵:羽後角館地方に於ける魚虫草木の民俗学的資料(1936)
- 15) 内田武志:鹿角方言集(東京刀江書院, 1936)

(4) 山形県の部

- 1) 前川文夫:ヤマブキシヨウマの食用(植研 21巻 94, 1947)
- 2) ——:イワタラとツチタラ(植研 27巻 147, 1952)
- 3) 村井貞固:山形県庄内地方の植物方言(文字と言語 6号)
- 4) ——:山形県飛鳥の植物方言(文字と言語 12号 36, 1937)
- 5) 庄内に於ける樹木の方言と其由来の考察(庄内博物学会研究録 4輯 40-53, 1940)
- 6) 中村正雄:楽之堂漫筆 11, 時局下重大なる任務を帯ぶる山菜につきて(植物趣味 10巻 45-46, 1943)
- 7) 太田長一郎:羽前小田島植物方言集(土の香 68号)
- 8) 佐藤正己:山形県庄内地方の植物方言に就て(山形農専研究報告 3号 1-49, 1950)
- 9) ——:山形県の植物方言, 1-2(山形農林学会報 1号 39-44, 1951; 2号 38-44, 1952)

- 10) ——:方言と文化(羽陽文化 14号 17, 1952)
- 11) 杉原千代太:荘内の生物方言(庄内博物学会研究録 1輯 104-112, 1935)
- 12) 山形県北村山郡郷土研究会:郷土植物誌, 第6篇 植物和名と方言の対照表(山形, 1940)

(5) 岩手県の部

- 1) 青森営林局:三陸植物誌(青森, 1935)
- 2) 福田 裕:草木方言集, 1(郷土研究 4号, 1931)
- 3) ——:草木方言考, 2(こけもも 5号 8-9頁, 1931)
- 4) ——:毒草の方言調査(こけもも 9号, 1933)
- 5) 細井幸兵衛:三陸植物雑観(青森林友 1953年4号 26-31, 1953)
- 6) ——:三陸地方のコゾウナカセ, ムコナカセ(北陸の植物 2巻65, 1953)
- 7) 岩瀬初郎:陸中植物方言小記, 1-3(岩手植物研究 1巻 57-58, 1932; 2巻 53頁, 1934; 2巻 183-184頁, 1937)
- 8) ——:水沢附近野生植物花暦(水沢郷土読本中巻, 1934)
- 9) 工藤はやと:紫波郡の動物・植物の方言(日本の言葉 1巻 87頁, 1947)
- 10) 松田岩平:岩手県気仙郡上有住村の植物方言(方言と土俗 1巻 68頁, 1930)
- 11) 村井三郎:岩手県針葉樹木誌(岩手植物研究 1巻 2号 16-51頁, 1932)
- 12) ——:三陸地方のカバノキ科樹木(同上 3号 7-26頁, 1932)
- 13) 小笠原謙吉:煙山の植物方言(方言と土俗 1巻 101-106頁, 1930)
- 14) 佐々木喜一:陸中国九戸, 膽沢, 江刺郡辺の植物方言一斑(植研 7巻 261-265頁, 1931)
- 15) 笹村祥二:岩手県遠野植物方言集(方言と土俗 1巻 7号 7-11頁, 1930)
- 16) ——:遠野附近植物方言誌(岩手植物研究 1巻 44-47頁, 1931)
- 17) ——:釜石地方植物方言誌(釜石文化資料 1-22頁, 1952)
- 18) 杉村松之助:童謡に現われた植物(岩手日報 昭和7年6月30日号-7月2日号各夕刊, 1932)

- 19) 摺元隆三：東磐植物方言誌 (岩手植物研究 1 卷 3 号 43-45 頁, 1932)
- 20) 武田宗夫：盛岡附近の植物方言 (盛岡中学校校友会雑誌 49 号)
- 21) 橋 正一：岩手県植物方言報文目録 (こけもも 10 号 3-5 頁, 1932)
- 22) ——：九戸郡の翁草の方言分布図 (方言と土俗 1 卷 263-271 頁, 1930)
- 23) ——：岩手県の翁草と遊戯と方言 (方言と土俗 4 卷 1-9 頁, 1933)
- 24) ——：植物方言と児戯 (岩手毎日新聞 昭和 5 年 8 月 15 日号, 1930)
- 25) ——：翁草の方言, 遊戯・童謡 (民俗学 2 卷 12 月号, 1931)
- 26) ——：蛙草, 車前草の方言 (方言と土俗 1 卷 10 号 13-22 頁, 1931)
- 27) ——：タンポポと山鳩 (方言と土俗 2 卷 2 号, 1931)
- 28) ——：翁草の遊戯と方言 (岩手毎日新聞 昭和 7 年 6 月 2 日-4 日号各朝刊, 1932)

(6) 宮城県の一部

- 1) 青森営林局：三陸植物誌 (青森, 1935)
- 2) 村井三郎：三陸地方のカバノキ科樹木 (岩手植物研究 1 卷 3 号 7-26 頁, 1932)
- 3) 前川文夫：ヤマブキシヨウマの食用 (植研 21 卷 94 頁, 1947)
- 4) ——：イワタラとツチタラ (植研 27 卷 147 頁, 1952)
- 5) 細井幸兵衛：三陸地方のコゾウナカセ, ムコナカセ (北陸の植物 2 卷 65 頁, 1953)

(7) 福島県の一部

- 1) 紺野良一：生物の方言名 (孔版 5 頁)
- 2) 松本 繁：磐城相馬の植物方言 (方言 2 卷 10 号)

Summary

1) The local names of *Fagus crenata* BL. and *F. japonica* MAXIM., *Hamamelis japonica* SIEB. et ZUCC. and *H. obtusata* MAKINO, *Stachyurus praecox* SIEB. et ZUCC., *Phellodendron amurense* RUPR. var. *suberosum* HARA, *Hydrangea paniculata* SIEB., *Torreya nucifera* SIEB. et ZUCC. and var. *radicans* NAKAI, *Cephalotaxus drupacea* SIEB. et ZUCC. and var. *nana* REHD. are enumerated in this paper.

2) According to the writer's investigation, many ancient names are still kept in Tōhoku district.

3) Among the local names of *Phellodendron amurense* RUPR. var. *suberosum* HARA, we can find several names originated from the Aino.